特集Ⅱ

感染予防で〝第三波後〟にぎわい創出へ

～医療・介護職と連携「まちなかコロナ対策チーム」～

市中心部の富山市商店街連盟と桜木町地区振興事業協同組合は、商店街や飲食店に安心して足を運んでもらおうと富山大学附属病院総合診療部・山城清二教授らの協力で「まちなかコロナ対策チーム」を立ち上げ、新型コロナウイルスの感染防止を進めています。事業主が「安心宣言」を出して対策の徹底を表明し、中心市街地が一丸となって「クラスター（感染者集団）を出さない営業」を目指すことで、第三波後のにぎわい創出を目指します。山城教授と富山市健康まちづくりマイスター連絡会代表の森田幸さん、同会副代表で富山安心介護ネットワーク（TAKN）代表の野村明子さん、富山市商店街連盟会長の石井隆信さん、桜木町地区振興事業協同組合理事長の澤田悦守さんにお話を伺いました。

4月のクラスターに対応

山城教授は、県の医療支援チームとして2020年4月にクラスターが発生した富山市内の老人保健施設に入り、自身も感染の不安を感じながら活動しました。施設での活動で介護が必要な高齢者が多い現実を痛感したそうです。第一波が収束した後は予防支援こそが重要だと確信しました。

「人が密集する中心市街地でクラスターが起きれば、大規模な感染になってしまいます。まずは①介護職・高齢者を守り、②施設・行政・病院・大学が連携する。③平時から②のような連携体制をつくり、備える。④風評被害への対策として記録を取る。そして高齢者の免疫力を落とさないように⑤介護予防・フレイル（虚弱）予防を強化する。そのためには⑥感染対策活動は地域を挙げて行う、といったことが大切です」

▲活動について語る山城教授

▲クラスター発生時、対応にあたる山城教授ら

山城教授は第一波の教訓から感染予防の支援を始めました。8月の第二波ではカラオケハウスやスナック等でクラスターが発生しています。第一波のような大規模感染を防ぐため、市福祉保健部と市保健所に感染予防の対策を提案しましたが、現場は感染者や感染者が出た施設への対応に追われていました。

健康づくりと連携

そこで、かねてよりともに活動していた森田さん、野村さんらに連絡を取りました。2人が携わる市健康まちづくりマイスター連絡会は、赤ちゃんから高齢者、障害者やその家族がいつまでも地域で安心して暮らせる社会の推進のために「健康まちづくりマイスター養成講座」を運営しています。もともと地域医療のひとつとして、コミュニティーで住民が健康づくりに取り組んでいたので、そこに新型コロナの感染予防の対策も必要ではないかと考えたのです。

「9月に、森田さんに『飲食店の方、対応に困っていませんか？中心市街地の高齢者を感染から守りたいです』と連絡すると、森田さんが民生児童委員や商店街連盟、桜木町組合に声を掛けてくださいました」

「高齢者施設でクラスターが発生すると致死率が上がり大変なことになる」という認識から、野村さんらは介護職の有志で5月にTAKNを立ち上げて情報交換をしていました。山城教授とTAKNのメンバーがまちなかに出て市民と連携することで、医療・介護・商店街・飲食店街のネットワークが重なり合います。専門職によるエビデンスに基づいた感染防止を、介護を含めた生活の場で徹底

▲「まちなかコロナ対策チーム」のメンバー
前列左から市商店街連盟石井会長、富山大学附属病院総合診療部山城教授、桜木町地区振興事業（協）澤田理事長、後列左から富山第一ホテル稲垣総支配人、TAKN野村代表、市健康まちづくりマイスター連絡会森田代表

商工とやま 掲載

するための仕組みができました。これが「まちなかコロナ対策チーム」の活動です。

活動内容や活動を通じて知り得た情報は、必要時には市や県に報告しています。これにより、行政側からも情報が入ってくるようになりました。

「マニュアル」を配布

森田さんによると、9月24日に関係者21人で集まったのが、活動のキックオフとなりました。商店街連盟と桜木町組合は、10月～11月にかけて山城教授を講師に講演会を開き、経営者らに感染予防の対策への理解を深めてもらいました。講演を聴いた石井さんは次のように感じたと話します。

「ウイルスが持ち込まれることは防げないかもしれないが、それを外部に出さない、内部で拡げないことで、クラスターを出さないことが重要だとわかりました。事業主は皆、業績が落ち込み、『いつまでこれが続くのか』という心配ばかりが先行していました。山城教授の話により、実際に感染者を出すとどれだけ大変か具体的にイメージできた一方で、ちゃんと感染予防対策を取れば収束させられると信じることができ、前向きになりました」

▲配布したマニュアル、マスク、マスクホルダー（口とマスクの間に挟むことで空間ができ、声がこもらなくなるグッズ）

まちなかコロナ対策チームで「GoToまちなか事業感染対策実施マニュアル」を作成し、市中心部の商店街や桜木町はもちろん、富山駅前の飲食店街でも配布しました。マニュアルにはマスク着用や3密（密集・密着・密閉）を防ぐ、手洗い・消毒、検温、参加者の連絡先把握の徹底などに加え、「専門医からの助言」として電子決済の利用や、接触確認アプリ（COCOA）の活用、「商店街ガイドライン」「県コロナLINE相談窓口」などが紹介されています。

▲飲食店等の視察

合わせてマスクとマスクホルダーも配りました。この3点セットを手に商店街・飲食店街を回ることで、事業主との会話が生まれ、情報も入ってくるようになりました。山城教授の言葉には、第一波のクラスターを目の当たりにし、感染予防に全力を尽くしている実感がこもっています。

「全国でも、コロナ対策を医療・介護従事者と商店街・飲食店が一緒に取り組む例は少ないように思います。冬場はウイルスが広がりやすいですが、県外からの流入はあっても、商店街から外に拡大する感染は防ぐことができています。『ここまでやってダメなら、新型コロナの力が強い』ということ。それは仕方がないと思えるところまで対策を徹底できています」

森田さんによると「まちなかコロナ対策チーム」の会合は、多くが富山第一ホテルを利用しているとのことです。「場所を提供してくれてありがたい」と話します。何かあれば集まって話せる場があることで、活動はうまくいっているのです。

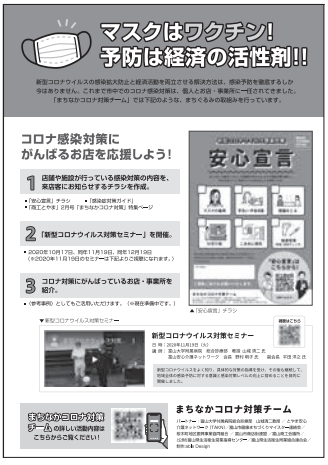
セミナー動画やチラシを公開

澤田さんによると、飲食店経営者の方々の不安は大きかったそうです。マニュアルを手渡しし、桜木町以外にはポスティングするなどして、協力を求めました。山城教授と一緒に商店街や飲食店を視察して回ると、店ごとの対策状況にはかなりの開きがありました。

「ある寿司店は客席をアクリル板で仕切り、お客さんがドアノブなどに触れる機会を極力なくす徹底した対策を取っていました。一方で、最初は何をしたらいいか分からないと迷う人もいました。また、37度以上の体温の人がいたらどう対応すればよいか、個室対応する場合はどうしたらいいかなど、講演会ではさまざまな質問が出ました」

11月19日に、当所でも「新型コロナウイルス情報交換会（対策セミナー）」を開催し、山城教授や野村さんらが講演しました。その内容はネットでご覧いただくことができます。

また、ネットから、飲食店が店頭に掲示して「安心宣言」を表明するチラシのデータもダウンロードできるようになっています。お客さんを取り戻すためには感染防止対策を徹底し、「この店なら大丈夫だ」と思ってもらうレベルに達することが必要です。「安心宣言」は「皆さんに「安



▶視聴ページ
http://www.ccis-toyama.or.jp/toyama/topi/machinaka.html
「安心宣言」チラシデータもこちらからダウンロードできます

心」だと思っていただけるよう精一杯努力します」という宣言です。

1店が感染者なりクラスターなりを起こしてしまうと、その店だけでなくそのビル、そのエリアが風評被害を受けるおそれがあります。感染対策のレベルをエリアや業界で高めていかなければなりません。まちなかコロナ対策チームの活動はそのためにあります。

対策でサービス向上

まちなかコロナ対策チームのメンバーは何度も商店街・飲食店街を訪れ、感染防止を徹底して営業している店を視察しました。声を揃えるのは「事業主の必死さが伝わった」という言葉です。澤田さんは「何とか営業を続けられるように支援しなければ」と思ったそうです。

「例えば報道で『あそこの店がすごく、よく(対策を)やっているよ』と聞くと、ライバル店も負けないように対策を講じ始める。店同士がサービスを向上させ、いい意味でお客さんを取り合っているのです。『あれぐらいやらないと通用しないよね』という意識が生まれ、感染防止が徹底されていきました」

事業主らは「まちなかコロナ対策チーム」の啓発活動によって、「新型コロナ対策は、『あちらを立てればこちらが立たず』ではなく、感染防止と営業を両立することも可能だ。工夫すればいろいろできる」と理解を深めていきました。

エリア全体に広がり

11月の講演会をきっかけに当所も加わり、エリア全体で感染対策を徹底していくことになりました。山城教授は「商工会議所を巻き込むことで、動きやすくなった」と話しています。森田さんは商店街・飲食店街が掲げている本来の目標である「まちなかの活性化」も勘案し、次のように話しました。

「今が踏ん張りどころです。感染対策は当面の課題ですが、まちづくりも大事です。人々の健康と、まちの経済状況は互いに影響しあいますから。我々は将来の目標を〝にぎわい創出〟としています。クラスターを出さないことは重要ですが、アフターコロナには新しいタイプのにぎわいができるよう、地域のネットワークを充実させていきたいのです」

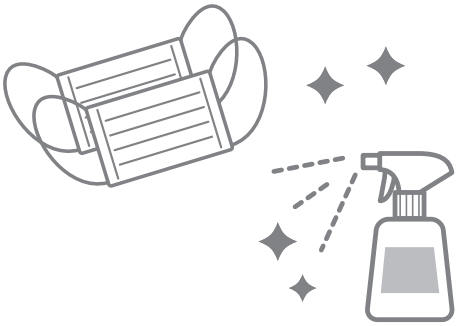
クラスター回避の後は、健康管理、早期診断、早期治療と地域一丸で健康維持に取り組み、商店街・飲食店街の活性化に貢献できることが大切です。

医療現場は手いっぱい

TAKN代表である野村さんは、ケアマネジャーの立場から、コロナ禍から高齢者と介護事業所を守ろうとネットワークを築いてきました。地域医療のスペシャリストである山城教授が予防対策を支援してくれたことに感謝を込めます。

「医療現場は通常の診療に加えて新型コロナ対応で手いっぱいです。介護現場の感染予防まで手伝う余裕はほとんどありません。しかし、そういった中で富山大学附属病院総合診療部と、いつも連携しているまちなか診療所の医師の支援を得て介護従事者への研修や現場視察が実現しました。正確な知識や助言を得たことで介護事業所は感染を最小限に止めて頑張っています。更に地域の方々とも一緒に予防活動を広めていけたら大きな効果が期待できると考えています」

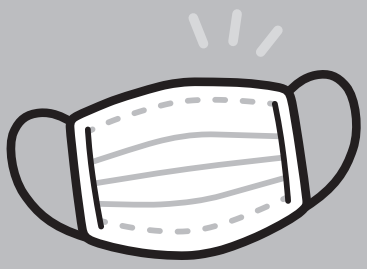
医療・介護・商店街・飲食店街が連携した新型コロナ感染防止の対策は、富山市中心市街地の安心・安全を保つべく努めています。当所は今後も「まちなかコロナ対策チーム」の活動を支援していきます。



この記事は、富山商工会議所 機関誌「商工とやま」2・3月号(No.718)掲載記事を一部再構成して別刷りしたものです。

まちなかコロナ対策チームの詳しい活動内容はこちらからご覧ください！

まちなかコロナ対策チーム
富山市総曲輪二丁目1番3号
富山市商店街連盟内
taisaku@machinaka-toyama.com



マスクはワクチン！ 予防は経済の活性剤!!

新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動を両立させる解決方法は、感染予防を徹底するしか今はありません。お客様とスタッフの健康を守り、地域の経済と安心安全を高めるため「まちなかコロナ対策チーム」では下記のような、まちぐるみの取組みを行っています。

コロナ感染対策に がんばるお店を応援しよう！

1 店舗や施設が行っている感染対策の内容を、来店客にお知らせするチラシを作成。

- 「安心宣言」チラシ
- 「感染症対策ガイド」
- 「商工とやま」2月号「まちなかコロナ対策」特集ページ

2 「新型コロナウイルス対策セミナー」を開催。

- 2020年10月17日、同年11月19日、同年12月19日
  （※2020年11月19日のセミナーは下記よりご視聴になれます。）

3 コロナ対策にがんばっているお店・事業所を紹介。

- 〈参考事例〉としてもご活用いただけます。（※現在準備中です。）

▲「安心宣言」チラシ

▼新型コロナウイルス対策セミナー

新型コロナウイルス対策セミナー

視聴はこちら

日 時：2020年11月19日（火）
講 師： 富山大学附属病院　総合診療科　教授　山城 清二 氏
富山安心介護ネットワーク　会長　野村 明子 氏　　副会長　平田 洋介 氏

新型コロナウイルスをよく知り、具体的な対策の指導を受け、その後も継続して、地域全体の感染予防に対する意識と感染対策レベルの向上に努めることを目的に開催しました。

まちなかコロナ対策チーム の詳しい活動内容は こちらからご覧ください！

まちなかコロナ対策チーム

パートナー：富山大学付属病院総合診療科　山城清二教授 ／ とやま安心介護ネットワーク（TAKN）／富山市健康まちづくりマイスター連絡会／桜木町地区振興事業協同組合 ／ 富山市商店街連盟 ／富山商工会議所／(公財)富山県生活衛生営業指導センター／富山県生活衛生同業組合連合会／制作:able Design